

忘れられていた記憶の寄す処

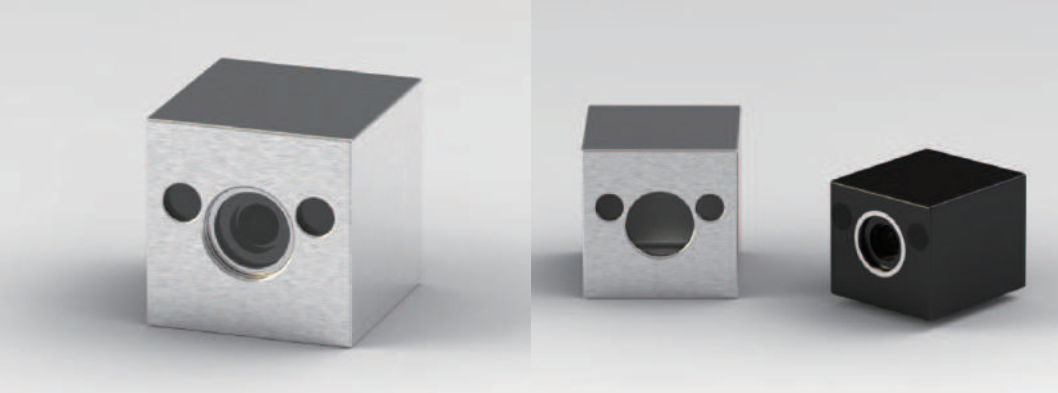
cubeLog



思いついた瞬間すぐさま写真を撮り、全ての思い出を残すことのできる時代に向けて
膨大な量の写真を自分の意のままに見ようとすれば、見られる事のない写真も大量に生まれてしまう
意図せず偶発的に表示される写真の一枚を寄す処とし過去を思い出しやすい写真の見方の提案

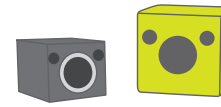
— 寄す処 —

物事をするのに、たよりとなること。よりどころ。てがかり
「今ではもう昔を知る一はない」「昔を偲ぶ一」

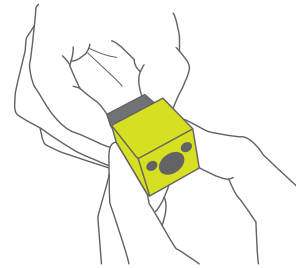


How to Use

📷 撮る



その日の気分やイベントなどで色々な種類のキューブの中からひとつを選びましょう



カメラにキューブを取り付けます

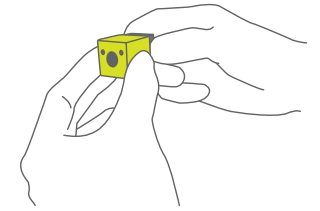


ストラップやクリップを使い体のどこかに装着します

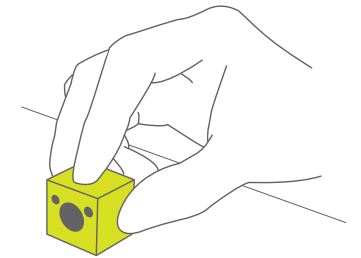


手を振るなどのジェスチャで写真を撮影します

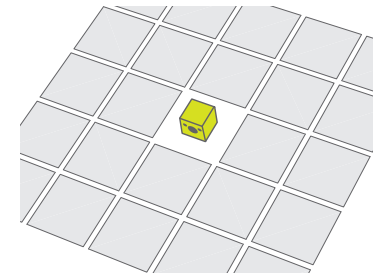
📺 見る



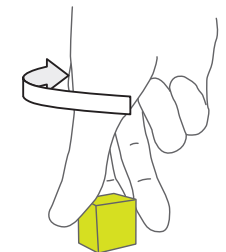
撮り終わったら、キューブからカメラを取り外します



キューブをタブレットや机一体型のビューワーの上に置くと、



そのキューブで撮った写真がビューワー上に表示されます



キューブを回転させると画像が拡大・縮小されます

Concept

メタデータを用いた写真の閲覧

膨大な量の写真を見るための、写真に付加されたメタデータを利用した写真の見方。
アナログではできない、デジタルである事の特徴を最大限生かす。

メタデータとは？

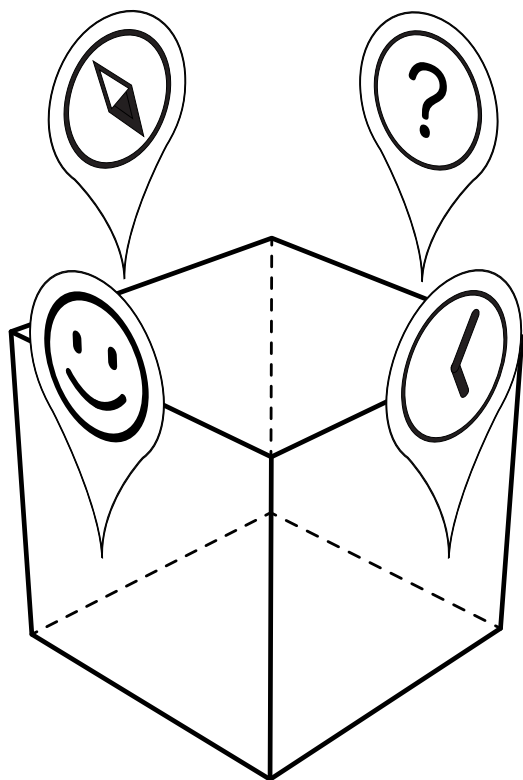
データについてのデータ。写真では、写真の画像情報以外の、撮影日や撮影時間といった情報がメタデータである。
メタデータを用いた検索も可能。

今回扱うメタデータ

WHERE?

どこで写真を撮ったか？

GPS から情報を付加



WHO?

誰の写真を撮ったか？

顔認識技術と音声入力で情報を付加

WHAT?

何の写真を撮ったか？

撮る際のジェスチャで情報を付加

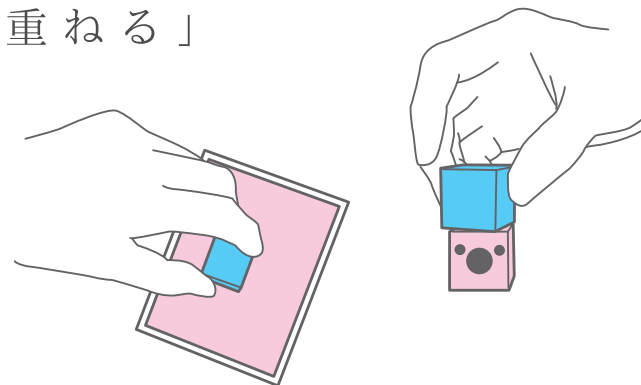
WHEN?

いつ写真を撮ったか？

今いる場所の時刻と同期して情報を付加

メタデータの利用の仕方

「重ねる」



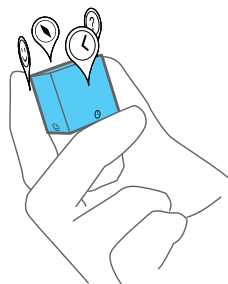
キューブ同士や表示されている写真とキューブ重ねることで
キューブ内の写真同士、もしくは写真とキューブ内の写真の間で、

同じメタデータを持った写真

両方に同じ人、同じ場所、同じ時間、同じモチーフのどれかが写っている写真
だけが表示される



積み木で遊ぶようにキューブを積み重ね、偶発的に表示される写真を元に記憶を思い出していくような写真の見方



全てのメタデータに着目するのではなく、
WHO, WHEN, WHERE, WHAT のどれかひとつにだけの条件
で写真を抽出することもできる。

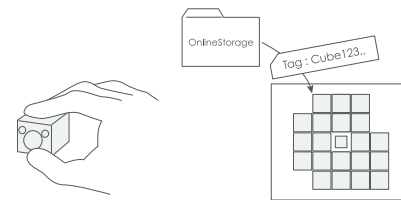
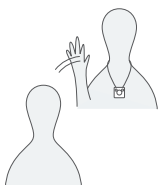
キューブの各面にメタデータが割り当てられており、その面
を上にして重ねることで行う。

Detail Drawing



- 01 透明アクリルカバー
- 02 NFC タグ
- 03 カメラユニット
- 04 近赤外光レーザー
- 05 近赤外光カメラ
- 06 撮像素子
- 07 人体検出 SoC
- 08 NFC リーダ
- 09 画像処理プロセッサ
- 10 CPU
- 11 WiFi 対応記録メディア
- 12 バッテリー
- 13 USB 端子

Mechanism



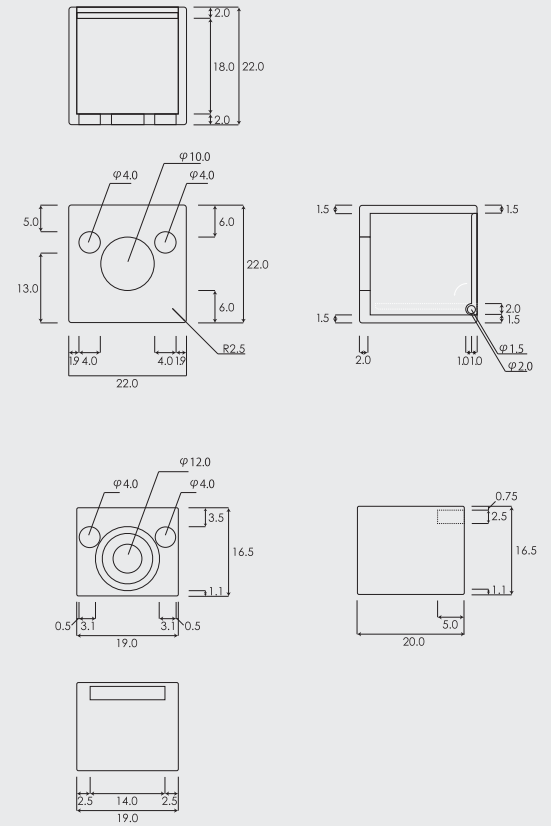
ジェスチャで撮影.様々なジェスチャを使い分けシーンセレクト(人物・風景 etc) すると,何を撮ったかがタグ付けされる (04.05.07)

画像データは NFC タグによってどのキューブで撮られた写真かタグ付けされ,(02,08) オンライン上に自動的にアップロードされる (11).

ビューワの上にキューブを載せると NFC タグを読み取り,ネットワーク上からそのキューブで撮った写真を表示される (02)

Drawing

scale 2:1
(mm)



scale 1:2
(mm)

